

未来につなぐ 福祉の心

～子ども一日民生委員の活動から～

幌北地区民生委員児童委員協議会 会長 齋藤 美紀子

活動するにあたって

近頃のテレビでは、毎日のように健康に関する番組が放映されています。高齢者も増え、それだけ関心も高いのでしょう。しかし、長生きはしても年金など収入はのびず、経済的にのんきには暮らせません。60歳定年がなくなり、70歳までも、元気なうちは働きましようとは、生きがいでなく、老後の収入を得るためともいえるでしょう。しかし、このように働く人が増えていくと、今まで退職後、無償でボランティア活動をしていた人がますます不足してしまいます。老人になっても収入を得なければならない世の中にあって、ボランティアがどこまで生き残れるか。急速な社会の変化の中で、地域の福祉の担い手の育て方を考えることが急務です。

そして、「食う、寝る、遊ぶ」の精神の中からは、ボランティア精神は育ちません。人は人の行動を見て学びます。小さな子どもの命を救ったスーパーボランティアと呼ばれた尾畠さん、この方の行動が放送され、ボランティアの実態を知った人も多いことでしょう。今生きている大人が、どのような生き方をしているかを子どもたちに知ってもらい、見せていくことの大切さを思います。家族以外の人も支え合って生きる姿、弱者を守るカッコ良さ、あたたかさ、人として価値ある姿を見せることが、豊かな生き方であることを知り、どんな時でも、幸せな人生を歩んでほしいと思います。

そこで、幌北地区では、地域の中の助け合いの形として、未来の大人である子どもたちに、民生委員児童委員の活動を知ってもらい、体験してもらおうと考えました。体験は、知識だけではなく、より自分事として捉えることができるだろうと考えたのです。

活動までの歩み

この体験学習に取り組む以前から、幌北小学校は、地域と子どもが触れ合う機会を、大事に積み重ねてきました。1年生から6年生までそれぞれに、工夫された活動があります。6年生は、以前から、幌北地区民生委員児童委員協議会（以下「幌北民児協」）の会長が、民生委員児童委員の活動について説明する出前学習を受けていました。

3年前、実際に6年生の子どもたちに民生委員として、高齢者のお宅を訪問する体験学習にしてはどうかという考えが提案されました。学校からは今までの積み重ねがあったためか、すぐに承諾をいただき、実施することとなりました。昨年7月には、3回目の体験学習を終えました。

子どものうちに、地域とは住んでいる場所を表すのではなく、人とのつながりをもって地域ができていくことを、肌で感じてほしいと思いました。

6年生総合学習「地域と共に」の取り組み

活動は、3回に分けて取り组まれました。

1回目 6/19(火)5校時 民生委員児童委員の活動の説明／2回目 6/28(木)4校時・給食・5校時 調べ学習の発表・給食交流・学校職員との交流／3回目 7/11(水)2校時・3校時 家庭訪問の体験学習・感想発表

春、小学校の今年度の学習計画の内容や日程が決定すると同時に、当日活動できる民生委員児童委員の人数の確認や訪問先（協力者）の確保など、実施に向けた様々な準備に取り掛かり、活動を開始しました。

1回目の出前授業では、「一日民生委員にチャレンジ」ということで、①民生委員は、困っている人と行政をつなぐ働きをしていること。②大正時代、貧しい生活を救おうという制度ができ、社会の変化によってその働きが変わってきたという歴

史。③どんな目的でどんな活動をしているのか、現在の民生委員の実際の活動。④民生委員の活動の注意点や悩みや喜び。守秘義務は、ここでふれました。

このような内容を活動の写真とともに、パワーポイントで説明をしました。赤い羽根の共同募金の活動の説明では「お金を集めるということより、毎年、困っている人を助けるという気持ちを忘れないでほしいという気持ちを込めて、呼びかけて活動しています。」と説明すると、「今度から寄付しよう。」という声が聞こえ、打てば響く素直な反応にうれしく思いました。



2回目の調べ学習の発表では、グループでよく調べ、しっかりまとめて説明をしてくれました。この時間をかけた過程の中で、授業として与えられた知識より、自分たちから進んで調べることで、知識がよりしっかり定着したのではないかと期待しています。



また、この後、給食を食べながら、次回、一緒に家庭訪問をする子どもと、民生委員の顔合わせをしました。初めて会って、一緒に家庭訪問といっても、緊張して気持ちに余裕のない活動になってしまいます。一度こうして顔見知りになっておくことは、次の体験学習をスムーズな活動へと導いてくれます。

給食後は、学校関係者との交流です。今年から校長も、幌北民児協の会長も代わりました。毎年の活動は同じでも、活動する子どもも、大人も、人は代わります。毎年、活動の趣旨やねらい、成果を意識して確認しながら、進めていくことの必要性を感じています。

3回目は、いよいよ体験学習です。民生委員1名と児童3~4名が1グループになり、14のグルー

プに分かれて訪問しました。75分間の活動で、移動時間と訪問時間をそれぞれのグループが考えて行動します。訪問先では、協力していただいた方が待っていてくださいました。あらかじめ、部屋には上がらず、玄関先での応対とし、お茶菓子の接待はしないなど、授業中ということでの協力依頼をしてあります。子どもたちは、訪問先での質問をいくつか用意していきました。訪問される方も、とてもうれしそうで、話はずみでした。

子どもたちが、少し緊張気味に「楽しみにしているのは、どんなことですか。」「困ることはありませんか。」と質問をすると、どの質問にもしっかり丁寧に答えてくださいました。「お友達とか、家族とか、自分の身近にいる人を大事にしてね。」という声に見送られて帰ってきました。その後、一堂に会して感想を発表して交流を終えました。



取り組みを終えて

子ども一日民生委員の活動は、小学校の協力なくして成り立ちません。わたしたちの地域の福祉への願いを理解し、活動に協力してくださった幌北小学校のみなさんに、心から感謝をしています。学習内容も多くなり、時数が足りなくなっているところ、子どもの足場である地域を大切に、共に歩むことを大事に考えていただけることは、とてもうれしく、やりがいのある活動でした。

この試みを通しての成果は、まだ出ていません。しかし、子どもたちから地域で支え合う心を育てていくこと、地域の幸せを作る力、福祉の心をもつ人を育てることは、今の大人の大切な役目だと思います。未来を見据えて、このような活動をこれからも工夫して、作っていきたいと考えています。種を植え、育てなければ、実はならないのですから。

○お問い合わせ

幌北まちづくりセンター

TEL.011-726-6345